

第2回 昭島市事務事業外部評価委員会 議 事 要 旨

〔日 時〕 平成25年7月10日（水）19：00～20：50

〔場 所〕 昭島市役所 3階 庁議室

〔出席者〕

1 委員

佐久間榮昭委員長、和田篤彦副委員長、出雲明子委員、松本智子委員、村上龍男委員、山田諭子委員

2 事務局

早川企画部長、佐藤企画政策室長、板野財政課長、進藤企画調整担当主査、滝瀬財政係長、吉野企画調整担当主任

3 傍聴者 なし

〔配布資料〕

- ・ 第2回事務事業外部評価委員会 次第
- ・ 外部評価候補事業一覧（資料1）
- ・ 事務事業評価（外部評価）シート（案）（資料2）
- ・ 事務事業評価（外部評価）報告書（案）（資料3）

議事に入る前に事務局より配布資料の確認を行った。

〔議事要旨〕

1 外部評価対象事業の選定

事務局より資料1をもとに説明を行った。

《質疑応答》

- ◆基本的には各部から1事業の選定としたい。昨年度、選定の際に、複数の委員から候補として挙げられた事業を優先したので、今年度も同様の方法で行いたい。

総務部はNo.21 保健福祉総合システム経費を2名が候補として挙げている。もう一方のNo.22 地域情報化経費を候補として挙げられた松本委員に理由をお伺いしたい。【佐久間委員長】

- ◆実施内容としてホームページ、予約システム、図書館システムの管理運用が記載されており、異なる3つのシステムが一緒になっている理由を知りたいと思った。ただ、事業費からみても、保健福祉総合システム経費を優先していただいて構わない。【松本委員】

- ◆山田委員は各部から事業費の大きいものを選定したとのことであり、総務部からは保健福祉総合システム経費を選ばれたとのことなので、総務部からはNo.21 保健福祉総合システム経費を対象とする。次に市民部はNo.23 市民税賦課事務、No.30 自治会等補助事業、No.33 シルバー人材センター補助事業が2票ずつだが、他の事業でどうしてもという事業があれば理由をお聞きしたい。【佐久間委員長】
- ◆もし、候補事業の中からNo.23 市民税賦課事務を選ぶことがあれば、No.24 土地家屋資産税賦課事務も一緒に評価を行っていききたい。【和田副委員長】
- 場合によっては対象外No.1 市税収納事務を同時に行うことも可能かもしれない。時間的制約もあるし、担当課も違うが行財政改革の中でも話があるとおり、賦課と収納は一体と考えられる。【企画部長】
- ◆No.33 シルバー人材センター補助事業について、団塊世代が退職時期を迎えているため、高齢者就労の拡充策について考えていきたい。No.31 コミュニティ推進事業については、自治会等への補助もあり、その事業と分ける必要性について疑問に思った。税にも関心があるので一体で評価を行えるのであればNo.23、24 も良いと思う。【村上委員】
- ◆No.28 契約保養施設利用補助事業については今後の方向性がD：縮小・廃止ということと、No.36 商工団体補助事業については24年度予算額が23年度決算額の倍で今後の方向性がA：成果拡大となっていたので、その理由を知りたいと思った。【松本委員】
- ◆それでは市民部はそのあたりから対象事業を選定していききたい。【佐久間委員長】
- 各部から1事業程度とお話ししたが、税とコミュニティ関連の事業については関連性もあまりなく、場合によっては市民部から2事業でも対応は可能かもしれない。【事務局】
- ◆それでは市民部からはNo.23 市民税賦課事務と対象外No.1 市税収納事務、及びNo.33 シルバー人材センター補助事業を評価対象事業とする。続いて保健福祉部からはNo.48 健康診査事業に2票入っている。山田委員は健康診査事業とNo.57 予防接種事業を候補として挙げているが、他の方々はいかがか。【佐久間委員長】
- ◆No.41 社会福祉協議会事務について、民間法人への人件費補助の適否について検討を要すると思ったのと、No.56 母親学級事業について、子育て支援への取組を確認したいと思ったが、どうしてもというわけではないのでNo.48 健康診査事業でよいと思う。【村上委員】
- ◆No.47 保健福祉センター管理運営について、市の施設としては比較的新しいので管理の方法などを知りたいと思ったが、No.48 健康診査事業を対象とすることで異論はない。【和田副委員長】
- ◆No.54 乳幼児健康診査事業とNo.56 母親学級事業で迷い、No.56 は事業費の割に講座などの開催数が多く、どのように行われているか不明な点もあったので、No.54 乳幼児健康診査事業を選択した。重要な事業だと思われるが、受診率の低さが気になった。No.44 相談支援業務について件数的には非常に多いようだが、内部評価シートからは、相談に対するどのような支援が行われているのかわからなかったもので、知りたいと思いこちらを挙げさせていただいた。【出雲委員】
- 出雲委員から質問をいただいていたので回答させていただく。1点目、No.56 母親学級事業について、講座の開催数の割に事業費が低いが、助産師や栄養士等の有資格者を臨時的に雇用し事業を実施しており、その分の人件費は健康課の総務関係の事業費から支出しているため、この事業費には反映されておらず、この金額となっている。2点目、No.60 高齢者紙おむつ購入費助成事業について、廃止も視野に入れながら見直しを行っていくことになっており、現在、自己負担制を導入する方向で調整中である。【事務局】

- ◆総務部の対象事業として私と山田委員が候補として挙げた保健福祉総合システム経費を選んだので、他の委員の候補の中から選びたいが、どうしてもというものがなければ保健福祉部からはNo.48 健康診査事業に決めさせていただく。続いて子ども家庭部からはNo.71 児童センター管理運営に2票入っているがいかがか。【佐久間委員長】
- ◆働く母親への支援は市の中でも重要な事業であると思われるので議論の中で色々な意見が出ればと思い、候補外No.2 認証保育所事業を挙げさせていただいた。【和田副委員長】
- ◆過去に外部評価の対象となった青少年等交流センターが、廃止を含めた事業の見直しを行うということで、そうすると児童センターの方は必要性が高いと思われるので選定した。ファミリーサポートセンター事業については個人的な関心から選んだ。【出雲委員】
- ◆No.73 青少年育成事業とNo.91 教育委員会運営事務はそれぞれ広報紙を発行しており、併せてもっとインパクトのあるものを作るなど、合理化できる可能性を検討したいと思い選定した。【松本委員】
- ◆No.71 児童センター管理運営について、昭島市は保育所の関係は充実していると思うが、学童も働く母親のニーズが高いと思う。併設の学童保育と共に民間法人へ委託したということで、民間委託によってどのように運営形態が変わったかを知りたいと思い選定した。【山田委員】
- ◆No.65 保育園事務経費については公立の2園とも市の西部にあるということで地域的な偏りがあると思ったのと、No.66 給食管理経費については民間委託の可能性について検討したいと思い選定した。ただ、保健福祉部からは2票を獲得している児童センター管理運営を対象とすることで委員全員異論はないようなので、No.71 児童センター管理運営に決定する。【佐久間委員長】
- ◆それでは環境部の対象事業を選んでいきたい。【佐久間委員長】
- ◆No.79 ごみ減量啓発事業費について、23年度に評価したごみ減量化・資源化事業の中にも啓発活動が含まれていたと思うので、その事業とどういった点で違うのか確認したいと思い選定した。【松本委員】
- ◆No.79 ごみ減量啓発事業費について、毎年同じ事業展開だと難しいと思うので、どのように実施しているのかを確認したいと思った。【出雲委員】
- ◆No.76 水路等維持管理事業について、内部評価シートから水路の清掃だけの事業と読み取れ、他の事業との統合などが検討できるのではないかと思い選定させていただいた。【村上委員】
- ◆候補外No.3 崖線緑地保全事業について、昭島の特徴として水を掲げており、こういった崖線、湧水の保全に力を注ぐべきであると思うが、事業費は低い。どのような内容か事業の実態を知りたいと思い選定した。ごみ関係は23年度24年度と続いており、かなりの努力が見られたので、今回は環境課から選ばせていただいた。【和田副委員長】
- ◆内部評価シートを見せていただいて、この候補外No.3 崖線緑地保全事業を評価してみるのも良いかもしれないと感じた。【松本委員】
- ◆確かにごみ関係が続いており、環境課がどんな事業を行っているかにも興味はある。【出雲委員】
- 候補外No.3 崖線緑地保全事業は23年度に用地を取得しており、その結果、翌年度は通常の維持管理経費のみになったので金額が大きく落ちている。崖線については東京都が購入した部分、市で購入した部分、寄付を受けた部分、所有者側で整備を行っている部分がある。【事務局】
- ◆和田副委員長のご意見は私としても納得できるので、候補外No.3 崖線緑地保全事業に決めていただいて結構である。【村上委員】
- ◆それでは環境部からは候補外No.3 崖線緑地保全事業に決定する。続いて都市整備部の事業を選定する。

【佐久間委員長】

◆No.84 鉄道駅自由通路維持管理経費について自由通路の管理にこれほどの経費がかかっているのかと驚いたのと、No.81 駅前公衆便所維持管理経費については自由通路と併せて委託することでコスト削減につながる可能性はないかと思い選定させていただいた。【松本委員】

◆No.89 クリーンセンター管理運営費について、下水処理にかかる事業費の大きさに驚いているのと、クリーンセンターがどこにあるのかも知らないという認識の低さもあり、こちらを選定した。【和田副委員長】

○クリーンセンターは郷地町の立川境にあり、以前は立川と一部事務組合を作り、立川昭島衛生組合でし尿処理を行っていたが、公共下水道の普及により解散した。現在は使われていない施設が多く、施設を解体、集約化し、その敷地の活用を図る計画であるが、この財政状況下でなかなか計画が進んでいない。【事務局】

◆No.88 し尿収集経費について、下水道が100%近い普及率にあるにもかかわらず、接続しないことを選択している一部の家庭のし尿を、市がこれだけの経費をかけて汲み取りをすることが適切なのかどうかを検討したいので選択した。都市整備部で候補を挙げていない出雲委員のお考えをお聞かせ願いたい。【佐久間委員長】

◆鉄道駅自由通路の具体的イメージができない。【出雲委員】

○駅をまたいで南と北をつないでいる通路で、拝島駅は公の施設、中神駅は道交法上の道路、昭島駅はJRの施設だが昇降機などは市の管理となっている。それぞれの駅によって形態が異なっている。【事務局】

◆いろいろとご意見はあるが、都市整備部はNo.84 鉄道駅自由通路維持管理経費とする。続いて学校教育部、松本委員からご説明いただきたい。【佐久間委員長】

◆No.91 教育委員会運営事務に関してはNo.73 の事業との広報紙の点だけが気になったので、カウントに入れていただかなくて構わない。No.116、No.120 の教育推進計画事業について目的や効果など、児童や生徒への教育の何に結び付けたいのか、評価シートからは読み取れず、不明な点について教えていただきたいと思い、こちらを選択した。【松本委員】

◆No.116、No.120 の教育推進計画事業について、新しい事業のためか実態がよくわからないが。【出雲委員】

○昭島市の子どもたちの学力を伸ばすための教育振興基本計画に基づく事業で、その前身として学校ごとに特色ある事業を実施するためにスクールプラン21という事業が実施されていたが、それに続く事業として24年度から実施している。【企画部長】

◆個別の評価をみるとかなり高いが、内部評価シートからは効果がよく分らない。【松本委員】

◆前身があるということだが、もう少し詳しく内容を記載していただきたいかった。【出雲委員】

◆No.92、No.97 学校管理運営費について、自身も市内の小学校を卒業しており、現在でも年に数回程度だが租税教育で訪問する機会がある。当時と変わらない部分も多く、老朽化もあると思われるがどのように管理運営がなされているか興味があったので、こちらを選択した。【山田委員】

◆少子化ということで空き教室が増えていくものと思われるが、そのような時代の変化に学校運営は適正に対応しているかどうかを確認したいと思い選定した。【和田副委員長】

◆これからの人材を育成していく上で、学校教育に関する事業費についてとやかく言うのはどうかと思いいこの中から選定はしなかったが、候補事業の選定理由を聞いていると、どちらも興味深いものと感

じた。庶務課からNo.92、No.97 学校管理運営費、指導課からNo.116、No.120 の教育推進計画事業の4事業ではどうか。【村上委員】

◆No.116、No.120 の教育推進計画事業について、松本委員のおっしゃったように、内容に不明な点が多く聞いてみたかったが、前身の事業があるということなので、学校教育部からはNo.92、No.97 学校管理運営費の方に決定したい。次に生涯学習部だが、No.139 市民図書館管理運営費が4票獲得しているのでこちらで決めたい。それではこれまでに選定した事業について確認を行う。総務部はNo.21 保健福祉総合システム経費、市民部からはNo.23 市民税賦課事務と対象外No.1 市税収納事務、及びNo.33 シルバー人材センター補助事業、保健福祉部はNo.48 健康診査事業、子ども家庭部からはNo.71 児童センター管理運営、環境部からは候補外No.3 崖線緑地保全事業、都市整備部はNo.84 鉄道駅自由通路維持管理経費、学校教育部からはNo.92、No.97 学校管理運営費、生涯学習部からはNo.139 市民図書館管理運営費とする。最後に企画部の事業を選定していく。【佐久間委員長】

◆No.5 訴訟事務経費について、決算額に比べて予算額が低い点が気になった。【松本委員】

○市が訴えられた場合に、弁護士を代理人とする際にかかる費用で、当初予算編成では見込めないため、決算額の方が大きくなっている。【事務局】

◆理由が判明し、金額的にも少ないので他の事業にしていただければと思う。【松本委員】

◆No.1 総合オンブズパーソン事業について、市民相談で相談業務は十分だと思われるが、オンブズパーソンがある意義についてはどうなのかと思った。【出雲委員】

○市に対する苦情について、市側でもなく申立人側でもない中立の立場から問題の解決を図っていく目的でオンブズパーソンを設置している。市民相談は市のサービスの一環で実施しており、オンブズパーソンに持ち込まれる問題は市への苦情で、市民相談で対応できるものではない。市として、市への苦情はこういった制度があり対応しているということも示す必要がある。【企画部長】

◆通常の苦情処理では対応できないのか。【出雲委員】

○通常、苦情処理にも対応しているが、それに対してまだ不満がある場合に第三者の独立した立場から解決を図っていくシステムである。【事務局】

◆他の自治体にも例があるか。【出雲委員】

○川崎市の福祉オンブズマンなど。全国的にもそれほど多くはない。【企画部長】

◆それほどの必要性は感じられないが。【出雲委員】

◆行政の対応がそもそもおかしいと納得できない方のために、中立の立場から申立人と行政のそれぞれの事情を聞いて判断していただいている。【事務局】

◆No.2 市民相談事業について、税法などが年々改正されており、今後この業務が重要になってくることもあるかと思い選定した。【和田副委員長】

◆No.6 文書管理経費について紙媒体、電子媒体と多様化している中で、どのように対応しているのか、文書の置き場はどのように確保しているのかを知りたいと思った。ここでは候補を挙げていない村上委員と山田委員に選んでいただきたい。【佐久間委員長】

◆文書管理経費についてはこの市の規模からこの程度はかかるものと思い、消去法でNo.2 市民相談事業かと思う。【村上委員】

◆皆さんのお話を伺い、文書管理経費についても興味はあるが、年に1回税務相談に携わることがあり、相続問題の相談を受けたこともあるので、市民相談事業かどちらかが良いのではないかと思う。【山田

委員】

○No.1 総合オンブズパーソン事業とNo.2 市民相談事業を併せて評価することも検討していただいで構わない。【事務局】

◆それではNo.1 総合オンブズパーソン事業とNo.2 市民相談事業をまとめて対象事業とする。評価対象事業についてはこのような形でよろしくお願ひしたい。【佐久間委員長】

○先ほど松本委員からNo.36 商工団体補助事業について 23 年度決算に対して 24 年度予算が倍になっているというお話をいただいでいたが、この事業に関しては震災の影響でくじらまつりが開催されなかったため、24 年度予算が増えた形となっている。【財政課長】

◆了解した。【松本委員】

2 評価基準の確認

事務局より事務事業評価（外部評価）シート（案）（資料2）及び、事務事業評価（外部評価）報告書（案）（資料3）に基づき、評価方法説明を行い、前年と同様の評価方法で実施することを確認した。

3 その他

事務局より委員会の日程についての説明を行い、全委員の日程調整を行った。

◆それでは7月25日（木）1時から事前説明を行う。本日はありがとうございました。【佐久間委員長】

～閉会～